

長都駅前遊びと学びの複合施設 整備の考え方について (屋内型こどもの遊び場の整備)

1. 整備の方向性

◎子育て世代から「屋内型こどもの遊び場」の設置に関する要望が多数寄せられている。
◎子育て世代が安価に利用しやすく、長期で安定的な運営が求められている。

◎中高大学生の学習スペース（サードプレイス）が不足している。
◎図書館分館や交流の場の設置に関する市民要望が多数寄せられている。

「屋内型こどもの遊び場」と「図書館分館」
が一体となった市の複合施設として整備

《イメージ》

子どもたちが天候に関わらず楽しく遊べる場所や、本と触れ合う図書館分館、また、中高生や子育て世帯の居場所づくりに係る設置要望に対し、ちとせモール2階に複合交流拠点施設として、屋内型こどもの遊び場、図書館分館の整備を行います。

屋内型こどもの遊び場 (予定)	
施設面積	987.21㎡
開館時間	10:00~17:15
定休日	毎週月曜日、年末年始
対象者	0~12歳(小学生以下) 保護者

図書館分館 (予定)	
施設面積	1,243.47㎡
開館時間	10:00~20:00
定休日	毎週月曜日、月最終金曜日、 蔵書点検日、年末年始
機能	一般書架・閲覧スペース、 学習スペース、子どものスペースなど



※写真はイメージです。

2. 屋内型こどもの遊び場の整備に係る考え方

① ゾーニング

- ・こども広場については、次の3つのエリアにゾーニングする。

区分	遊び等の内容
ベビーゾーン	概ね0歳～2歳程度のこどもが安全に遊べるエリア
動のゾーン	「走る」「登る」「くぐる」など、こどもの基礎的な体力や運動能力の向上を促すアスレチック遊具エリア
静のゾーン	こどもの知識・技能や、思考力・判断力・表現力等の育成に効果的な遊びができるエリア

② 設計

- ・居心地がよく落ち着いた雰囲気です統一感のある色調、デザインとする。
- ・複合施設とすることから、図書館分館との親和性・一体感に配慮した空間とする。
- ・千歳のまちの特色や文化・歴史を感じられるような空間を創出する。
- ・飲食や休憩が出来る、こども広場と一体で利用可能な開放的なスペースを設ける。
- ・イベントや各種講座等、様々な企画や使い方が出来るような一定のスペースを設ける。
- ・床面・壁面は、転倒・接触等が想定される範囲をクッション性のある素材で覆うなど安全性を確保する。
- ・相談コーナーには、プライバシーに配慮された相談室（個室）を設ける。
- ・こどもの見守りや施設内の監視に対する効果が発揮できるよう、防犯カメラを設置する。
- ・周囲については、防犯面・安全面・視認性に配慮した高さ・材質の壁により仕切る。
- ・ユニバーサルデザイン、バリアフリーに配慮した空間とする。
- ・死角が少なく見通しのよい空間とする。

③ 遊具・玩具

- ・遊び場のシンボルとなるような、視覚的にも楽しめる複合遊具を設置する。
- ・誰もが安心・安全に遊ぶことができるインクルーシブに配慮した遊具を設置する。
- ・口に入れても安全な素材を使用するほか、誤嚥窒息を予防する大きさの玩具とする。
- ・遊具・玩具は、耐久性に優れ、維持管理性や更新性等のランニングコストに配慮したものとする。

④ その他備える設備

- ・授乳室、おむつ替えスペースを設ける。
- ・利用定員から想定される程度のベビーカーや車椅子置き場を出入口付近に設ける。